



あなたやあなたのご家族、ご友人は乳がん・子宮頸がんの検診を受けていますか。
「受診する時間がない」、「私は大丈夫」が一番心配です。
乳がん・子宮頸がんは早期に治療することで治る病気です。
自分のため、大切な人たちのためにも定期的に検診を受けましょう。

あなたを守れるのは あなた自身です

～乳がん・子宮頸がん検診を受けましょう～

問 保険健康課 ☎84-0327



早期治療で死亡率低下 妊娠能力温存

年齢別にみた子宮頸がんの発症率は30代から40代に多く、10万人あたり10～15人がかかるとされています。また近年、20代での発症が増加しており、若年層での発症率と死亡率が、増加傾向にあります。
子宮頸がん検診による早期発見、治療により、死亡率の低下だけでなく、がんの治癒後の妊娠・出産の可能性を高くすることも期待されます。

子宮頸がんのこと

子宮頸がんは、子宮の入り口にできるがんのことです。性交渉で感染するHPV（ヒトパピローマウイルス）が主な原因とされています。

乳がんのこと

乳がんは、乳房に悪性のしこりをつくる病気です。しこりを感じなくても、乳頭から血や浸出液が出てきて見つかることもあります。

早期発見・治療なら 生存率90%以上

近年、日本人女性に急増しており、発症率は11人に1人と言われています。乳がんは20代のり患が認められ、患者のピークは40代後半から50代前半となっています。
早期に見つかり、適切な治療を受けた場合、90%以上は治ります。年々治療法は進歩しており、手術の負担は軽減し、薬による治療効果も高くなってきています。
乳がんを命を落とさないためにも検診を受けましょう。

子宮頸がんのサイン

- 初期症状はまったくない
- 進行すると、月経とは無関係な出血が見られたり、性行為の際に出血する
- 異常なおりものが増える など

子宮頸がん検診

検診は、問診、内診、細胞診です。細胞診は、子宮頸がんを発見するためのふるい分け検査として行われます。検査は子宮頸部付近の細胞を綿棒などでこすりとり、顕微鏡でがん細胞の有無を調べます。これだけでなく、正常な細胞と比較して評価・診断することから、細胞ががん化する一歩前の前がん状態（異型細胞）を見つけることもできます。

乳がん検診

問診とマンモグラフィ検査を行います。
乳がん検診での乳房X線検査（マンモグラフィ）は、専用の装置を使って、乳房を透明なプラスチックの板に挟んだ状態でX線撮影をし、その画像から乳がんの有無を調べます。また、町では30代の方を対象に、超音波（エコー）検査の助成もしています。

乳がんのサイン

- 乳房のしこり（乳がんの大きさが0.5～1cmくらいになると、しこりとして触れることがあります。）
- 乳房のえくぼなど皮膚変化
- わきの下のリンパ節のはれ
- 乳頭分泌
- びらん（皮膚のただれ） など

ティール&ホワイトリボンは子宮頸がん啓発活動のシンボルマークです。

ピンクリボンは乳がん啓発活動のシンボルマークです。

乳がん・子宮頸がん検診のご案内

個別検診

各自、指定医療機関で検診を受けられます。
平成30年3月31日まで以下の料金で受診できます。

【乳がん検診】
マンモグラフィ検査・・・対象：40歳以上 費用：2,700円
エコー検査・・・対象：30歳以上 費用1,300円

【子宮頸がん検診】
対象：20歳以上 費用：2,900円

※41歳の方（乳がん検診）と21歳の方（子宮頸がん検診）に無料クーポンを送付しています。この機会に受診しましょう！
※検診の受診間隔は2年に1回です。

集団検診

乳がんと子宮頸がん検査を検診バスで同時に受けられます。受診希望の方は保険健康課へお申し込みください。

日程：11月9日(木)、28日(火)、平成30年1月24日(水)
場所：保健センター
【乳がん検診】（マンモグラフィ検査）
対象：40歳以上 費用：1,800円
【子宮頸がん】
対象：20歳以上 費用：1,200円

※乳がん検診は完全予約制です。ただし、平成27年度に集団検診を受診した方は申込み不要です。

保健師から女性の皆さんに伝えたいこと

乳がん・子宮頸がんの発見年齢層は、家庭でも社会でも重要な立場にある方々です。特に乳がんは、治療においても他のがんと比べて長期の経過観察が必要で、多額の費用がかかります。また、子育て中の家庭を襲うがんであることが多く、しっかりとした対策が必要です。

症状がないまま進行するがんを早期に発見するには、日々のセルフチェックや定期的ながん検診の受診が大切です。
町では、乳がん検診は40歳以上の女性に、子宮頸がん検診は20歳以上の女性に2年に1度ご案内しています。女性の皆さん、ぜひ、乳がん・子宮頸がん検診を受けましょう。

乳がんのセルフチェックをしましょう！



保険健康課
露木 和子保健師

①

鏡の前に自然な状態で立ち、両方の乳房に違和感がないか観察します。また、両手を上下させ、正面・側面・斜めなどから乳房を観察します。



②

指をそろえて、指の腹で静かに押さえながら、丁寧に渦巻き状に何度も乳房にしこりがないか調べます。（石鹸をつけるとうべりが良くなります。）



③

乳頭を軽くつまみ、血や透明の液などの分泌物がでないか調べます。

